



西病棟（中央診療棟 屋上ヘリポートより）



搬入している光景（ヘリコプター（ひばり）から患者さまを運んでいる作業）

検査技師の姿（データをチェックしている作業）

ナースステーション（看護師などの作業光景）

## 病院敷地内全面禁煙のお知らせ

熊本大学医学部附属病院は、平成19年12月1日から敷地内全面禁煙を実施してまいりました。

喫煙は、肺がんや喉頭がんを始めとする多くのがんや循環器疾患等を誘発しますが、副流煙による受動喫煙によりたばこを吸われない周囲の人々にも健康被害が及びます。

本院は、分煙方式では受動喫煙は避けられないと判断し、病院敷地内全てに亘り、教職員はもとより、患者様やそのご家族及びお見舞いの方など、病院出入りの全ての方々に全面禁煙へのご理解とご協力をお願いしてまいりました。

しかしながら、一部の喫煙者により敷地内禁煙が守られてない状況があり、また、周辺の方々からの喫煙に関する苦情もあることから、平成22年7月1日から、病院の建物内、敷地内（含む中庭、駐車場）および周辺道路・公園を全面禁煙とし、もし禁煙を守れない場合は、来院者には退去勧告、入院患者様には退院や転院を勧告することを決定しました。皆様のご理解とご協力をお願いします。



### 熊本大学医学部附属病院

#### 【理念】

本院は、患者本位の医療の実践、臨床医学の発展及び医療人の育成に努め、地域の福祉と健康に貢献する。

#### 【基本方針】

- ・ 患者の主訴・希望・期待・要求を尊重する医療の実践
- ・ 適切で安全安心と高信頼性の医療サービスを仁恵の心で提供
- ・ 優れた医療人の育成
- ・ 先進医療の開発と推進

#### 【患者の権利】

- 本院はリスボン宣言に基づき、患者がもつ次の権利を認識し、それを守ります。
- ・ 良質な医療を受ける権利
  - ・ 担当の医師、病院、保健サービスを自由に選択する権利
  - ・ 十分な説明を受けた後に、治療を受け入れるか否か自由に決める権利
  - ・ 自身の情報を得る権利
  - ・ 自身の情報について秘密が守られる権利
  - ・ 健康教育を受ける権利

## CONTENTS

特集…………… P2・3

「東病棟完成」  
「東病棟完成記念式典」



知っ得！納得！…………… P4

心筋梗塞  
Q & A



診療科・部門紹介…………… P5

耳鼻咽喉科・頭頸部外科  
リハビリテーション部

新設センターの紹介…………… P6

高度医療開発センター  
新設寄附講座紹介  
(循環器予防医学先端医療寄附講座)  
(移植医療学寄附講座)  
(重症心身障がい学寄附講座)



看護部だより…………… P7

掲示板…………… P8

## TAKE FREE

熊大病院  
広報誌

### <看護師募集中>

あなたの笑顔が熊大病院の顔です。



担当：熊大病院 総務・人事ユニット 人事給与担当  
096-373-5913



病院長 猪股裕紀洋

## 東病棟が稼働しました

西病棟、中央診療棟に続き、東病棟が完成し、9月18・19・20日に一部診療科を残して6病棟から移転をしました。これに先立ち、9月4日には祝賀式典を開催できました。

完成稼働までご尽力いただいた関係者の方々に深くお礼を申し上げます。すでに40年使われてきた第6病棟と比較するのは酷ですが、明るく、ゆとりを感じる空間が広がっています。

既存の西病棟と、エレベーターホールを挟んで対称的に作られ、一体性の高い病棟構築となりました。これにより、消化器、神経疾患、女性疾患、周産期医療、メタボリックシンドロームなど各臓器・領域の疾患が、個別診療科の垣根を越えてセンター化され、患者さまを総合的、集学的、効率的に診療する体制整備ができました。最上階には患者用の図書スペースや独立した院内学級が作られ、1階には広い病棟売店が整備され、患者さまには暖かい雰囲気も提供できるようになりました。

中央診療棟とも非常に近くなり、手術や検査へのアクセスが容易になり、患者さまにも職員にも優しい入院施設となっています。個々の建物が順次建っていくことはやむを得ないことですが、こうして入院病棟全体の完成をみますと、やはり、将来を見据えた病院一体としての設計が非常に重要であることを痛感します。

今後、外来棟新築が成れば、病院全体がさらに機能的に充実していくことでしょう。この東病棟稼働を機会に、職員一同 Refresh して、患者本位の医療、臨床医学の発展と医療人育成、地域医療の推進、の熊本大病院基本理念を再度認識したいと思います。

皆様のさらなるご支援をいただきますようよろしく御願いたします。



昼の景観 東病棟（左側）と西病棟



夜の景観 東病棟（左側）と西病棟

各階で東病棟と西病棟がエレベーターホールでつながっている

西病棟		東病棟
耳鼻咽喉科・頭頸部外科、膠原病内科、救急・総合診療部	12階	院内学級、多目的ホール、ライブラリーインフォメーション
血液内科、感染免疫診療部、膠原病内科	11階	呼吸器内科、呼吸器外科
皮膚科、形成・再建科、泌尿器科	10階	歯科口腔外科、泌尿器科
代謝・内分泌内科、腎臓内科、画像診断治療科（12月下旬まで東病棟6階）	9階	眼科、糖尿病センター
小児科、発達小児科、NICU、GCU	8階	小児外科、移植外科、小児科、発達小児科
周産母子センター、MFIICU	7階	婦人科、乳腺内分泌外科
ICU、血液浄化療法部	6階	心臓血管外科、HCU
脳神経外科・SCU（12月下旬まで6病棟8階）、神経内科（12月下旬まで西病棟9階）	5階	循環器内科、CCU
神経内科、消化器外科	4階	消化器外科
RI	3階	消化器内科
神経精神科、こころの診療科	2階	整形外科科
栄養管理室 厨房 防災センター	1階	薬剤部 売店（ねむのき） 理容室 美容室
更衣室 仮眠室 設備室	B1階	霊安室 病理解剖室 機械室

### 病棟案内図

平成22年9月21日現在

# 東病棟完成記念式典

熊本大学医学部附属病院では、去る9月4日に病棟完成記念式典及び祝賀会を挙行了た。

式典には関係者ら約150人が出席。文部科学省からは大臣官房文教施設企画部 岡技術参事官、医学教育課 玉上大学病院支援室長が出席、これからの病院運営に期待を込めた祝辞が述べられ、新たな門出を祝った。

2007年11月に着工した東病棟が、2010年2月に竣工。2002年に完成した西病棟と併せ、入院病棟の整備が完了した。東病棟の総工費は約113億円。地上12階、地下1階の免震構造で、総床面積は約2万平方メートル。

また、病棟は、手術部や放射線部、検査部等のある中央診療棟とも連結しており、関連の深い診療科等を水平方向に配置することで、疾患別の横断的な体制による「患者本位の医療の実践」を、これまで以上に効率的に提供する環境が整備された。

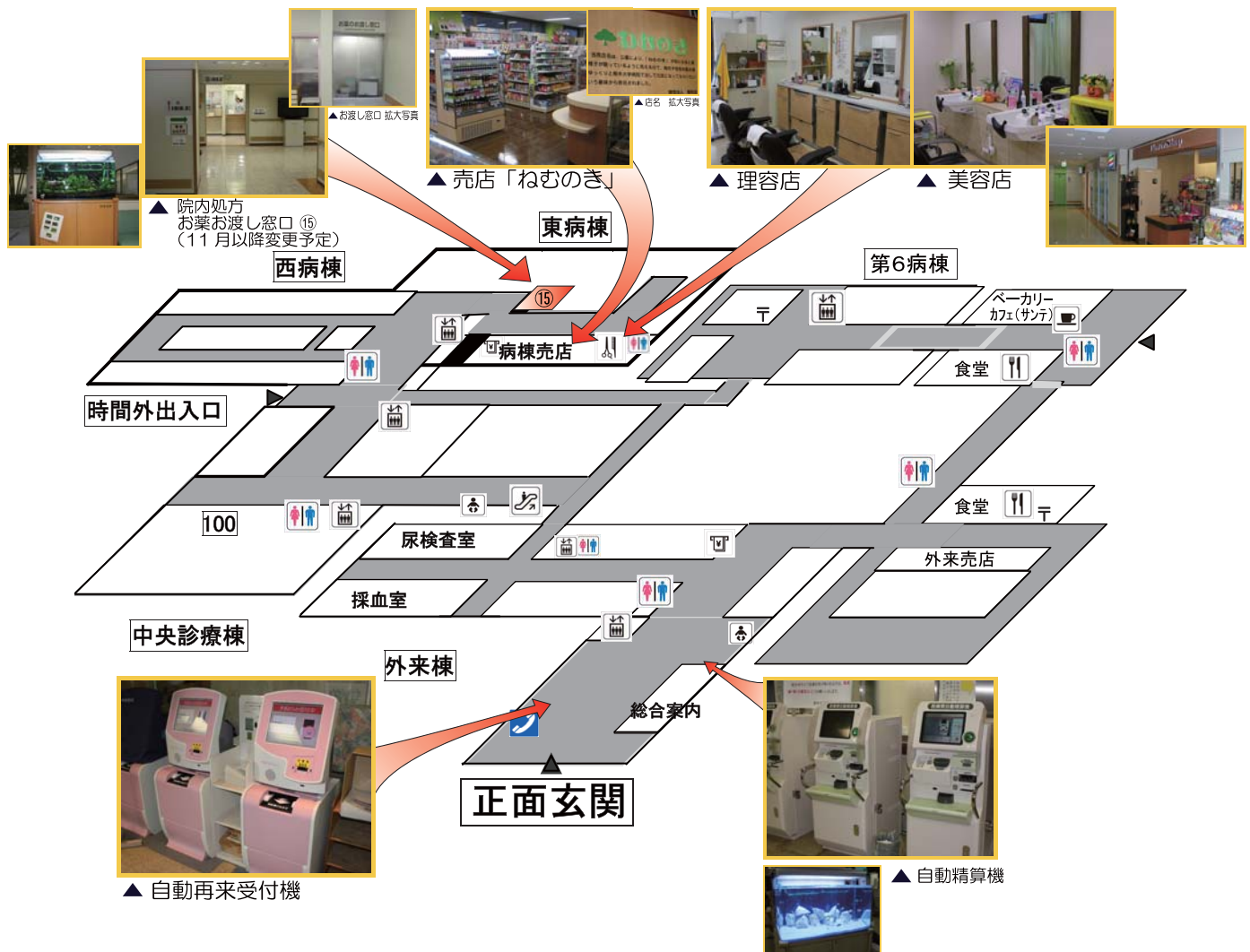


▲ テープカットをする岡技術参事官（左から4人目）、玉上大学病院支援室長（左から3人目）、田口副学長（左から5人目）ら



式辞を述べる病院長

## 熊本大学医学部附属病院 病棟案内図 新しい施設等



# 心筋梗塞ってどんな病気



**Q** 心筋梗塞とはどんな方がおこりやすいですか?

**A** 心筋梗塞を誘発する要因としまして、主に、高血圧・糖尿病・喫煙・脂質異常症、ストレスの多い方です。最近、若い世代からは、コレステロールや中性脂肪の高い方がおこりやすいです。

**Q** 年齢的にはどのような方が起きているのですか?

**A** 高齢者はもちろん多いのですが、ここ最近では、だんだん若年化しており、30歳代から40歳代の方が増えてきています。熊本県では、急性心筋梗塞で病院に搬送された方は年間およそ1000人います。

一方では、心臓が原因で院外で心肺停止になられる方が年間およそ800人いることが我々の登録調査(図)全国ウツタインデータから判明しています。

**Q** 心筋梗塞を疑う症状が持続する場合、どうすればいいですか?

**A** 早急に、循環器専門医がいる病院へ搬送されるのが一番です。特に、心筋梗塞急性期は不整脈が出現したり、心臓破裂をおこすなど致命的になる可能性がありますので、救急車を呼んで安静にしておくことです。

我慢したり自力で病院に行こうとはしないでください。

**Q** 心筋梗塞の主な症状はどんなものですか?

**A** 胸がしめつけられるような強い痛みがおこり、冷や汗がでる、安静にしたり、狭心症の発作を鎮める薬を飲んで改善しない。症状(発作)が15~20分以上続く症状です。

ただし、糖尿病のある人や高齢者は、明らかな自覚症状なく発症することも多いので注意が必要です。

発症—救急搬送—診断—治療—退院までのながれ



**Q** どのような対策を行ってますか?

**A** 熊本大病院では、循環器の救急疾患の診療に積極的に取り組んでおり、モービルCCUという心臓専門の救急車を扱ってます。

また、新病棟では、冠動脈集中治療室が4床に増え、さらに多くの重傷者の受け入れが可能になりました。

## 熊本急性冠症候群研究会

熊本県内において、急性心筋梗塞に対し、緊急冠動脈インターベンションが実施可能である19施設

- 熊本大学医学部附属病院
  - 熊本赤十字病院
  - 済生会熊本病院
  - 熊本中央病院
  - 国立病院機構熊本医療センター
  - 熊本市民病院
  - 熊本地域医療センター
  - 熊本機能病院
  - 荒尾市民病院
  - 公立玉名中央病院
  - 植木病院
  - 再春荘病院
  - 八代総合病院
  - 熊本労災病院
  - 上天草総合病院
  - 天草地域医療センター
  - 人吉総合病院
  - 公立多良木病院
  - 水俣市立総合医療センター
- (順不同)



### お問い合わせ先

熊本急性冠症候群研究会

(熊本大学大学院 生命科学研究所 循環器病態学内)

研究責任者  
事務局

小川久雄  
小島 淳

TEL: 096-373-5175  
FAX: 096-362-3256

耳鼻咽喉科・頭頸部外科は、耳、鼻、副鼻腔、口腔咽頭、喉頭、頸部、甲状腺、唾液腺などの部位を専門領域とする診療科です。

当科ではこれら領域の疾患に対して主に手術治療を中心に診療を行っております。今回は手術で改善が可能な難聴として耳硬化症を例にあげ、その病態と治療の概要についてご紹介いたします。



「音の聞こえる仕組み」

耳へ入ってきた音はまず鼓膜を振動させます。鼓膜の振動は鼓膜の奥にある3つの小さい骨（耳小骨）を介して内耳（蝸牛）へ伝わり、蝸牛内でこの振動は電気信号に変換されます。その電気信号が神経を通して脳へと伝わることにより我々は音を認識することができます。

「感音性難聴と伝音性難聴」

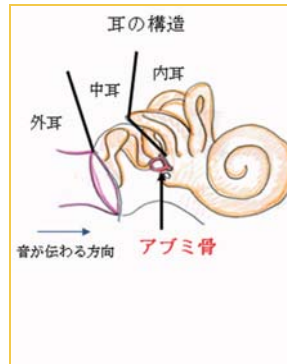
難聴は大きく2つに分けられます。1つは内耳もしくは神経に原因がある「感音性難聴」、もう一つは外耳もしくは中耳に原因がある「伝音性難聴」です。伝音性難聴の多くは治療で回復が可能です。



今回ご紹介する耳硬化症も伝音性難聴を来す病気の一つです。

「耳硬化症」

3つの耳小骨のうち最も内側にあるのがアブミ骨であり、この骨が少しずつ硬くなって動かなくなるのがこの病気です。病気が進行するにつれて音の振動が内耳に伝えられなくなるため徐々に聞こえが悪くなります。手術で動かなくなったアブミ骨を人工のアブミ骨に置き換えることにより聴力の改善が可能です。手術は全身麻酔で行い入院期間は通常7日程度です。



当科では上記のような難聴の改善手術のみでなく、声、嚥下（のみ込み）などの機能改善手術にも積極的に取り組んでおります。

リハビリテーション部

リハビリテーション（リハ）部は、当院におけるリハ診療・研究・教育を行う部門です。1967年12月「機能訓練室」として診療が開始され、1973年4月中央診療部門「理学療法部」として正式発足、1975年外来棟1階に移設、2007年1月新中央診療棟2階に移転し「リハビリテーション部」と名称が変更され現在に至っています。

現在、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の病院スタッフと義肢装具士（外来日のみ）によって、外来診療および入院患者さまのリハを中心としたチーム医療を実践しています。診察は火・木・金曜の午前中で、リハ治療は月～金曜に担当療法士のもとで完全予約制として行っています。

また、月曜と水曜の午後にはスタッフ全員でリハカンファレンスを行い、患者さまの経過を確認しリハ内容を再検討しています。対象疾患・障害は、脳梗塞・脳出血・くも膜下出血・脳腫瘍・パーキンソン病などの脳・神経の疾患、関節リウマチ・変形性関節症・骨折などの運動器疾患、脳性麻痺やポリオなどの小児疾患、慢性閉塞性肺疾患や開胸・開腹術

前術後などの呼吸・循環器疾患、切断、がん、廃用症候群、熱傷、高次脳機能障害などですが、どのような疾患にも良質のリハが提供できるように、疾患別（運動器、脳血管疾患等、呼吸、心大血管）リハのすべてにおいて施設基準を取得しています。

必要に応じてベッドサイドでのリハも行っています。些細なことでも結構ですので、どうぞお気軽にご相談ください。



写真：スタッフ集合写真

恵和会イベント

財団法人恵和会の助成により開催されている院内のイベント等をご紹介します。

ちっちゃな夏祭り

平成22年8月25日（木）18時40分より、熊大病院外来診療棟ロビーにて「ちっちゃな夏祭り」が開催されました。本院に入院されているお子様に夏祭り気分を楽しんでいただくために開催されました。



敬老の日

本院では、9月27日（月）に院内で敬老の日の記念として、財団法人恵和会との協賛で、特製バスタオルを65歳以上の入院患者さま（251名）へプレゼントしました。猪股病院長及び右田看護部長からプレゼントが手渡されると、患者さまは、「よい記念になりました。」と大変喜ばれていました。



クリスマス・イルミネーション

平成22年11月初旬から平成23年1月末まで院内「憩いの広場」にてイルミネーションの点灯を予定しています。（点灯時間は17時30分から22時まで）



昨年の様子

高度医療開発センターは、遺伝子治療、移植医療及び病態が十分に解明されていない種々の難病等の予防・診断・治療法などの開発を推進するプロジェクトを支援し、プロジェクトの企画・調整から成果の分析・評価まで、高度・先進的な医療を開発する中核を担っています。

現在、「不整脈先端医療寄附講座」「機能神経外科先端医療寄附講座」「心血管治療先端医療寄附講座」「新生児学寄附講座」「循環器臨床研究先端医療寄附講座」「循環器予防医学先端医療寄附講座」「移植医療学寄附講座」の7講座を開講しており、先進的な臨床研究及び医療技術の開発に取り組んでいます。

## 新設寄附講座紹介

### 循環器予防医学先端医療寄附講座

心疾患は突然発症し、Quality of life や生命に危険を及ぼす重篤な疾患であるため、その予防は社会的にも重要な問題です。虚血性心疾患等に代表される心疾患は標準的な治療に加え、発症や再発予防のためには危険因子の管理が重要です。本講座は最近増加している循環器疾患の予防に関する臨床研究を遂行し、診療に役立てることを目的に2010年4月に設置されました。



脂質異常症、糖尿病や高血圧などに対しては薬剤の介入が奏功しています。さらに禁煙や運動療法などライフスタイルの改善が予後の改善に有用です。本講座では、これまで循環器内科で取り組めてなかつ

た心臓リハビリを、経験豊かなリハビリテーション部とコラボレーションし、導入すべく努力しています。今後の展望としてCPX（心肺運動負荷試験）により適切な運動量を設定し、心機能に与える好影響を評価したいと考えています。



写真 特任准教授：田山信至

近年では食事の欧米化・高カロリー食や脂質比率の増加が、循環器疾患の増加に関連しています。メタボリックシンドローム・特に糖尿病などを循環器疾患予備状態ととらえ、一次予防についても取り組んでいきたいと考えています。

本講座は研究・教育は循環器病態学との連携のもと実施され、医学部学生の教育についても、循環器診療の一翼を担っています。

### 移植医療学寄附講座

本院では1998年の第一例目からこれまで300例近い生体肝移植手術が施行されており、ここ数年は、年間症例数も35例前後と安定しています。その対象疾患は、ウィルス性肝炎、胆道閉鎖症といった、一般的な肝移植適応疾患から、FAPや他の珍しい代謝性疾患まで多岐にわたっています。

また、一歳以下の乳児から成人まで、幅広い年齢層を対象としており、現在では限られた国内小児肝移植専門施設の一つとしても認知されています。さらに、劇症肝不全に対する緊急移植も随時施行可能な体制が確立されてきました。

本年7月17日より、改正臓器移植法が施行され、脳死と判定された場合、家族の同意があれば臓器の提供が可能となり、また15歳以下の脳死ドナーからの臓器提供も認められるようになりました。今後、脳死下での臓器提供が増加することが予想され、移植施設を増やすという方針の下に、本院もあらたに脳死肝移植実施施設となることになりました。

臓器移植は多大なマンパワーを要する医療で、移植外科医のみならず多くの他分野の医師、さらには多くのパラメディカルスタッフの協力なくしては遂行できません。また、まだまだ歴史の浅い分野だけに、多くの課題を克服すべく更なる研究成果も求められています。



写真 特任教授：阿曾沼克弘

当寄附講座では、そのような内外のニーズに対応すべく、肝臓のみならず、腎臓、小腸なども含めた臓器移植の一層の発展のために、効率的な臓器移植システムの確立を図っていきます。そのために、新たな人材の確保、育成を行うとともに、若手研究者の教育、指導を通じて、リサーチ部門も充実させ、斬新な研究成果を広く発信し、熊大が九州での移植医療の中心拠点となることをめざします。

## 重症心身障がい学寄附講座

「重症心身障害児」という言葉を聞かれたことがあるでしょうか。これは、重症の心身障害児のことで、主として重い脳性麻痺のお子さまが相当します。

日本では昭和42年に児童福祉法が改正されて、重症心身障害児（成人を含めて重症児（者）と略します）のことが法律に明記されました。それ以来、重症児（者）には法律の保護のもとに医療と福祉のサービスが提供されてきました。

はじめは重症児（者）のための施設（重症心身障害児施設と国立療養所重心病棟）への入所が中心で、その後、在宅重症児（者）への支援が加わりました。



写真 スタッフ一同

しかし、医療環境の改善や経済環境の変化で重症児（者）を取り巻く環境は次第に変化し、現在では施設の多くは満床で新入所は容易でなく、以前より重い重症児（者）が

在宅で生活する状況が出現しています。

このたび熊本大学医学部附属病院に重症心身障がい学寄附講座が開設されましたのは、このような状況と無関係ではありません。これは熊本県からの寄附により設置された講座で、NICUや小児科病棟にいる重症児が在宅にスムーズに移行できるように環境を整備することが大きな目的です。そのためには、短期入所、訪問看護、通園の利用が可能になることが重要になります。

そのほか、関係の諸機関どうしの連携の構築・維持や、若手医師や学生に対する教育、在宅重症児（者）に関する実態調査などが目的です。よろしくをお願いします。



写真 特任教授：松葉佐正



## 看護部だより

感染対策室

感染管理認定看護師 藤本陽子 石井美奈

昨今、感染症に関する問題は社会を大きく揺るがしています。新型インフルエンザの世界的大流行や多剤耐性菌の院内感染への対応など、医療機関では質の高い感染対策がますます求められています。



石井 認定看護師（左側）と 藤本 認定看護師（右側）

当院では、平成16年から感染制御チーム（ICT）を結成し、感染管理認定看護師もICTの一員として感染対策の向上に取り組んでいます。ICTは医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師、管理栄養士、事務員などの多職種メンバーで構成されています。活動内容はミーティングで病院内の感染に関する情報を共有し、問題解決にあたり、病棟ラウンドを行い、手洗いの実施状況、環境整備や廃棄物管理を確認しています。また各部署では感染リンクナースがICTと連携しながら感染対策を推進しており、ラウンド結果の見直しや咳エチケットキャンペーンなど協働しています。

感染管理認定看護師は、専門的な知識と技術を用いて患者さま・来訪者・医療従事者・施設・環境を対象に、感染に対するリスクを最小限に抑えるために、効果的な感染管理を、計画、実践、評価し、提供するサービスの質の向上を図る重要な責任を担っています。具体的には、毎日、電子カルテから院内

でどのような菌が検出されているかをチェックして部署に出向き、感染が広がらないようにスタッフの相談や支援を行っています。また医療に携わる職員は感染対策の知識が重要であり、職員一人一人の意識を高めるための教育的活動も欠かせません。そこで新人看護職員には患者さまのケアに活かせる実践的な標準予防策の研修を企画し、全職員には時季の感染対策の話題を中心にした研修を行っています。

病院感染を防止するためには、各部門と協力・連携し、組織全体で安全で信頼性のある医療を提供できるよう感染管理を行っていきたいと思います。感染に関することでお困りのことがありましたら、感染対策室にご相談ください。



ICTミーティング



ICTラウンド



◆ 新人研修

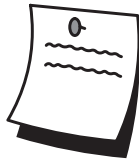


APIC実査



リンクナース採血技術チェック





## 外来診療日 (各診療科の◎印は「初診」「再診」を行っています。)

平成 22 年 10 月 1 日現在

診療科名	月	火	水	木	金
総合診療 (救急・総合診療部)	◎	◎	◎	◎	
呼吸器内科	◎	◎	◎	初診のみ	◎
消化器内科	◎	◎	◎	◎	◎
血液内科	◎	特殊再診のみ	◎	特殊再診のみ	◎
膠原病内科	◎	特殊再診のみ	◎	特殊再診のみ	◎
腎臓内科	◎	◎	◎	◎	◎
代謝・内分泌内科	◎	◎	◎	◎	◎
循環器内科	◎	◎	◎	◎	◎
神経内科	◎	◎	◎	◎	◎
心臓血管外科		◎		◎	
呼吸器外科		◎		◎	
消化器外科	◎	◎	◎	◎	◎
乳腺・内分泌外科	◎	◎	◎	◎	◎
小児外科	◎		◎	◎	◎
移植外科	◎		◎	◎	◎
泌尿器科		◎		◎	◎
婦人科	◎	不妊外来	◎	不妊外来	◎
小児科	◎		◎		◎
発達小児科		◎		◎	
産科	◎	不妊外来 生殖医療 カウンセリング	◎	不妊外来	◎
リハビリテーション部		◎		◎	◎
整形外科		◎		◎	◎
皮膚科	◎		◎	◎	◎
形成・再建科			◎	◎	
眼科	◎	◎	特殊再診のみ	◎	
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	◎		◎		◎
歯科口腔外科	◎	◎	◎	◎	◎
画像診断・治療科	◎		◎		◎
放射線治療科	◎	◎	◎	◎	◎
こころの診療科		◎ (要予約)	再診のみ (要予約)	◎ (要予約)	◎ (要予約)
神経精神科		◎ (要予約)	◎ (要予約)	◎ (要予約)	◎ (要予約)
脳神経外科	◎		◎		◎
麻酔科・緩和ケア	◎		◎		◎

熊大病院は高度医療を提供する「特定機能病院」として厚生労働省から承認を受けています。地域医療機関との分業を行うため、原則としてかかりつけ医（他の医療機関）の紹介状が必要です。円滑な診療のために紹介状をご持参ください。紹介状がない場合でも受診できますが、初回および再初診の際に「保険外併用療養費（選定療養）」として3,150円（自費、平成22年10月現在）をご負担いただきます。

## 「お知らせ1」

市民公開講座 一般市民向け講演会のご案内

### くまもとのがん診療を変える「私のカルテ」

※「私のカルテ」とは…熊本県内の医療機関で共有する患者さん自身が持つカルテで、全国に先駆け取り組みです。

- 第1部 医療相談会  
「がんの医療相談会2010」
- 第2部 市民公開講座  
「がんの医療連携2010」

日時：平成22年11月3日 祝（水）  
13時～17時

場所：くまもと県民交流館パレア  
(テトリアくまもと10階ホール)

定員：講演会 (入場無料)  
先着280名  
医療相談 (入場無料)  
各コース6名、10分程度



※ 医療相談会及び市民公開講座のお申し込みは、熊本大学医学部附属病院医事ユニット担当へ電話又はファックスで直接お申し込みください。

(TEL: 096-373-5965)

(FAX: 096-373-5957)

なお、医療相談会及び市民公開講座の内容等は、熊本大学医学部附属病院のホームページの「熊本県がん診療連携協議会」に掲載しますとともに、県内の医療機関等へ配付しますポスターをご覧ください。

## 「お知らせ2」

がん診療連携協議会一般市民向け講演会

### 講演会：「がんの放射線治療最前線～放射線治療をしましょうと言われたら～」

日時：平成22年12月19日（日）14時00分（13時30分開場）

会場：くまもと県民交流館パレア 10F パレアホール

#### 1. 「こんなに役立つ！放射線治療～放射線は怖くない」

講師：熊本大学生命科学研究部放射線治療学教授 大屋 夏生

#### 2. 「こんなに安全！放射線治療～正確・精密・快適な最新技術」

講師：熊本大学医学部附属病院医療技術部主任診療放射線技師 丸山 雅人

#### 3. 「こんなに安心！放射線治療～最適のケアで不安解消」

講師：熊本大学医学部附属病院看護部看護師 太田 由利香



熊本大学医学部附属病院

〒860-8556

熊本市本荘1丁目1番1号

TEL (096) 344-2111 (代)

FAX (096) 373-5906

<http://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp>